

建築家

通信

2016.4.30

vol.109



公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
JIA長野県クラブ

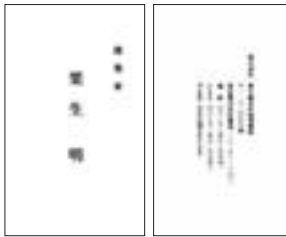
<http://www.jia-nagano.com>

E-mail info@jia-nagano.com

建築家とはなにか

栗生 明

私の名刺はいたってシンプルである。縦書きで二行「建築家 栗生明」と記してある。(もちろん裏に事務所の住所と電話番号、メールアドレスが小さく載っているのだが)



これは名刺を差し出す相手への、直截な自己紹介であるだけでなく、自分は「建築家である」という矜持と同時に、常に「建築家でありたい」とする願いの護符でもありと考えているからである。だからといって「建築家とはなにか」という問いに、適切な回答を持っているわけではない。少し極端に聞こえるかもしれないけれど、私にとって「建築家とはなにか」という問いは、「生きるとはなにか」と同義の問いであり、即答できる類の問いではないからである。

話は飛ぶが、22年前に「植村直己冒険館」と名づけられた建築を設計した。ご存知だと思うけれど、植村直己は世界5大陸の最高峰を登頂しただけでなく、アマゾン川を筏で下ったり、北極圏1万2千キロを犬糞で横断するなど、人間の可能性のフロンティアを拡張し続けた冒険家である。「植村直己冒険館」は、この国民栄誉賞受賞者の業績を顕彰するために建てられた記念館なのだ。そして、竣工2年後から「植村直己冒険賞」という事業を主催している。過去一年間に目覚ましい冒険を達成した冒険家に授与されるこの賞は本年で20周年を迎える。

私は毎年この賞の発表記者会見を傍聴している。常識では考えられないような、危険極まりない冒険をしてきた冒険家たちの話は深く重い。(実際には、彼らはなんでもなかったように話すのだけれど)8000mを超える高峰のデスゾーン(死の領域)、海に落ちたら瞬時に凍死するような極寒の極地、水もない灼熱地獄の砂漠でのサバイバルを成し遂げた冒険者の話が面白くないはずはない。そこでは「未知なる人間の能力」の発現が開示されるからだ。「人間はこんなこともできるのか」という人間の「生き延びる能力」への信頼が湧き上がってくるからかもしれない。

竹内洋岳という登山家をご存知だろうか。日本人初の8000mを超える高峰14座全ての登頂者であり、第17回の植村直己冒険賞の受賞者である。彼の話は「登山家とはなにか」について考える上で興味深く、示唆に富んでいた。10座目のガッシャブルムII峰にアタックしている時には7000m地点で雪崩に巻き込まれ、300m落下して仲間2人を亡くした。自身も腰椎骨折などの重傷を負いながらも、各国登山隊のレスキューによって奇跡的に生還した。そして復帰は絶望的といわれる状況で懸命にリハビリをし、1年後には見事再登頂を果たしたのだ。しかし、私が興味を持ったのはこの冒険の顛末ではなく、彼が病院のベッドで「登山家とはなにか」「冒険家とはなにか」を考え続けたことだった。

彼は「家」のつく職業を全て書き出してみた。(全てという

ところがすごいですね)「政治家、法律家、画家、彫刻家、写真家、音楽家、噺家、小説家、…」もちろん建築家も。そこでこれらの「家」のつく職業の共通項はなにかと考えた。そして気づいたのは、これら「家」のつく職業には「資格」というものがいないという単純な事



実だった。確かに「政治家」や「法律家」に資格はいる。「代議士」となれば選挙に当選することが資格条件だし、「弁護士」「検事」「裁判官」は国家試験に合格し資格認定を受ける必要がある。しかし、「政治家」や「法律家」は資格がないといって誇られることはない。「噺家」だって業界内だけれど、師匠や席亭のお墨付きをもらって初めて、「前座」から「二つ目」に昇進し、精進して「真打」となって師匠と呼ばれる。勝手に「真打」を名乗ったら、資格詐称だろう。建築の分野でも「建築士」は国家試験合格が資格条件となっている。一方「建築家」のほうは建築のことはほとんど知らない人間だとしても、今すぐからでも「建築家」を名乗り、名刺に「建築家」と刷り込んだとしてもすぐさま「詐称」と誇られることはない。だから、竹内さんに言わせれば、「家」とつく職業は「いいかげんで、いかがわしいもの」なのだ。そもそも考えてみれば、「冒険家」という呼称ほど資格と縁遠いものはない。既存の社会的規範を超えるからこそ「冒険」の名に値するわけだから、「資格のある冒険家」などというのは既に言語矛盾であろう。

話を戻そう。資格のない「登山家」が社会にプロとして認められるために必要なことは何かと考えた時、竹内さんは「覚悟」という言葉が浮かんだという。「こころざし」を持ち「覚悟」を持ってことにあたり、自ら立てた目標を達成しつづけることこそが、その道のプロとして社会に受け入れられることの要諦なのだ。「結果を出し続けること」「資格をとること」よりはるかに困難なこととは言までもない。

最後に私の記憶に残っている言葉を記してこの稿を閉じたい。中止になった東京都市博覧会の折、総合プロデューサーの泉真也さんが私に向かって「栗生君、建築家っていうのはほとんど詐欺師だねー」と言われた。私も若かったので気色ばんで「それはひどい言い方ですね」と反発した。泉さんはニヤッと笑って「いや僕は詐欺師だと言っているわけではない」「ほとんど詐欺師だと言っているんだよ」と。

詐欺になるか、ならないかは、結果において判断される。大風呂敷をひろげても結果が良ければ詐欺にならない。地道にやっけても結果が悪ければ詐欺になる。

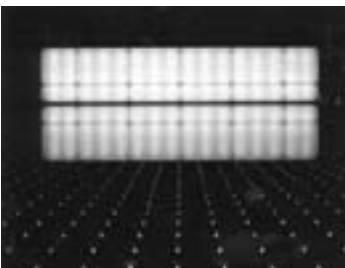
建築家は資格という安全ベルトなしの綱渡りをしているのかもしれない。



植村直己冒険館



伊勢神宮・せんぐう館



国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館



平等院鳳翔館

建築祭

自然・文化・歴史をつなぐ建築

手仕事扱い処 ゆこもり 瀧沢 一以



私自身は、残念ながらまだ、どれも行ったことがなく、初めて知った方でしたが、講演では、栗生さんが設計された具体例(植村直己冒険館や国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、伊勢神宮せんぐう館など)について伺えました。

栗生さんは若い頃、植村直己さんに影響を受けたそうで、「自然との共生」について、お話されていましたが、その地域や環境に寄り添った“優しい”建築に思えました。

また、建築の「作法」として、1)古さと新しさ 2)身体性 3)繕いについて、ご自身の建築などを交えて話されていて、実際に見て、感じてみたい

建築に思えました。

途中、「景観10年、風景100年、風土1000年」(佐々木綱)という言葉を紹介されていました。

奇をてらった、目立って何ぼな建築が横行している昨今、落ち着いたお声とともに、その考え方にちょっとホッとしました。

最後に、松岡正剛さんの言葉「母国再生」より、母が「自然・歴史・文化」だとすると、父は「資本主義経済・近代化」で、母はつながり・身体性・時間なのでは、とのこと。

いろいろと示唆に富んだ、素敵な講演会で、いつか栗生さん設計の建築を是非、訪ねたいと思います。

建築祭 総評

菊池 弘之



松本市美術館との共同企画開催となってから8回目となる建築祭でした。正会員・協力会員・美術館・事務局、皆さんのご協力があった無事終わることが出来ました。建築祭となった当初より事業委員となり、長野のトイゴで2年間の開催時は、会場のレイアウトと使用時間帯の組み合わせがパズルのように複雑だったのを思い出します。松本市美術館の会場になってから数年かけて、会場・

備品・担当・ポスター・タイムテーブル等々、経験から改善し、ようやく充実した時期に委員長を担当したので、当初開催された時期に比べれば苦労は少ないのですが、何故か毎年、修正・改善事案が出てきます。乗り越えられたのは、事業委員長の先輩方の助言や委員の方々の方々の率先した行動に感謝です。毎年、講演・審査委員長の人柄が建築祭の雰囲気を変えているのを感じます。栗生明先生は優しく・穏やかに、そして建築家として芯のある方だと感じました。暖かい方々の集まりが建築祭を支えているのだと感じます。

長野県学生卒業設計展・コンクール

長野県学生卒業設計コンクール審査に参加して

新潟地域会代表 小川 峰夫



過去2年、長野県学生卒業設計展は新潟県学生課題設計コンクールと日程が重なり参加することができませんでしたが、やっと念願叶い審査員として参加することができました。まずは、この卒業設計展が暮らしの空間セミナー、文化講演会と合わせ、松本市美術館との協同企画で建築祭として行われているということに驚きました。地方の美術館が建築の企画展を行うことも素晴らしいことですが、

公共施設である美術館が建築の民間団体と協同企画を行うことに驚嘆しました。それは、JIA長野県クラブが長年の事業実績を積み、お互いの信頼関係を築き上げてきたことによると推察し、敬意を表したいと思います。長野の卒業設計展は、大学の他専門学校と高校の部門があるのが特徴です。世代の異なる学生が一堂に会し卒業設計展を行うことに重要な意義があると思います。また、近年始められた市民が選ぶ「建築市民賞」も多くの投票があり、松本市民の意識の高さを感じ取ることができました。

リアリティのある学生の作品

高田 武弘



今回も学生の作品に見え隠れする時代を捉え、示唆に富んだ提案には驚かされました。一昔前の学生の作品には夢物語のユートピアな作品が存在した。それはそれで魅力的ではあるが、そんな事本当にできるの、お金はいくらかかるの、法的に可能なの、先ずそんな思いが頭に浮かぶような作品が目についた。まさにフィクションである。頭の中で練り上げられた虚構である。一方、長野県の学生の

建築作品には、現実性がある。今回の出展された作品は、現地調査、取材からデータを精査し、建築化しているノンフィクションな作品がほとんどである。従って、学生の作品には、今のリアルな社会問題を建築的に解決する一つのアイデアがあり、また建築作品を通じて、社会に対する問題提起がある。それ故にいつの日かこの学生設計コンクールで入賞した作品が、実際に建築されている姿を見てみたい。そしてこの学生時代のスタンスをさらに磨きをかけて社会に挑んでほしい。そんな率直な感想を抱きました。



長野県学生卒業設計展・コンクール



高等学校の部

長野県飯田OIDE長姫高等学校 建築学科 福本 雅弘

この度は、学生卒業設計コンクール高等学校の部で、金賞の評価をいただき誠にありがとうございます。

今回の設計は、菱田春草の生誕地での地域の方々との「協働」からヒントを得、「観光」による地域の活性化ではなく、高齢化の進む中心市街地の中で、人々が「つながり」「誇りを持って暮らす」ための施設として提案しました。

審査員の先生方からは、いろいろなアドバイスを頂きました。特に「春草

公園」との関係は、もう少し詰める必要を感じました。

今回の受賞を、お世話になった地域の方々も大変喜んでくれました。これからも建築の勉強に精進して、いつの日か地域の中で活躍できる「建築家」になりたいと思います。



専門学校の部

上田情報ビジネス専門学校 建築学科 インテリア住環境コース 半田 麗奈

この度は専門学校部の金賞という素晴らしい賞をいただきましてありがとうございます。私は高校から建築を学び始めましたが、建築の魅力を感じたのは専門学校へ来てからです。

今回の卒業設計を通じて、建築の難しさ、楽しさ、魅力、それらを強く実感することができました。涙が出そうになるほどあたたかな想いを建築に込める。私はそんなことを学び、そして建築と向き合うことができました。ここで頂いた賞を糧にこれから社会に出てさらに建

築について学び、さらに建築を好きになっていけたらと思います。

最後になりましたが、指導して下さった先生方、支えてくれた家族、関わって下さった全ての人に心から感謝申し上げます。2年間ありがとうございました。



大学の部

信州大学 工学部 建築学科 鬼頭 美絵

この度は、長野県卒業設計コンクールにおいて、金賞という評価をいただき誠にありがとうございます。審査員の先生方をはじめ、制作に携わっていただいた全ての方に感謝申し上げます。

今回の設計は朝日村役場をアーティスト・イン・レジデンス施設として再生するというものです。地域住民とアーティストが交流し、互いに学び合う日常はとても素敵だと思ひ、このような提案をしました。役場がその役目

を終えても、その愛着や歴史が受け継がれるよう、そして村の新しい魅力になることを考えて設計しました。

まだまだ未熟者ではありますが、これからも地域に寄り添い、人と人とのよりよい関係を築く空間が設計できるよう精進していきたいと思ひます。



市民賞

信州大学 工学部 建築学科 山西 輝

この度は、長野県卒業設計コンクールにて、市民賞をいただいたことを大変光栄に思っています。設計展を企画して下さいました関係者の方、並びに卒業制作を手伝って下さった皆様により感謝申し上げます。

今回の設計は、小諸駅の建替え計画を行いました。近年、北陸新幹線のルートから外れたことで観光客が減少し、駅前が衰退が起きている小諸駅において、老朽化による駅舎建替えを機に、地域住民の憩いの場

としても利用できる駅を提案しました。地方都市における人口減少の時代、駅を核とした地域コミュニティが今以上に求められると考え設計を行いました。まだまだ未熟者ですが、地域に根差した町の玄関口となる駅を提案できるよう精進していきたいと思ひます。



第25回学生卒業設計コンクール 審査結果

高等学校の部	
金賞	飯田OIDE長姫高等学校 福本 雅弘 歴史を刻むミュージアム ~春草から未来へ~
銀賞	長野工業高等学校 黒岩 洗太 信州憩いの場 ~心とむ美術館・人が集う情報センター~
銅賞	長野工業高等学校 山本 紗綾 つたえめぐる場
奨励賞	長野工業高等学校 鈴木 美里 House in House ~つながりのある温かいお家~
奨励賞	長野工業高等学校 宮入 秀平 トイレットバーとバームクーヘン ~Student library~

専門学校の部	
金賞	上田情報ビジネス専門学校 半田 麗奈 チガイに デアウ ~いただきますから始まる異文化交流会~
銀賞	上田情報ビジネス専門学校 那須 昂太 つくるを想う
銅賞	上田情報ビジネス専門学校 山本 有起 full of music
銅賞	上田情報ビジネス専門学校 山岸 知穂 笑顔が集う場所

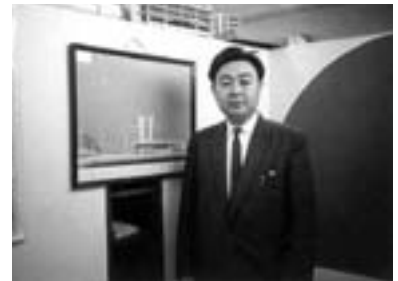
大学の部	
金賞	信州大学 鬼頭 美絵 つむぐ歴史、あふれるアート ~朝日村役場再生計画~
銀賞	信州大学 山田 一真 傾斜が構築する建築
銅賞	信州大学 吉田 拓 WASTE to POWER
奨励賞	信州大学 山西 輝 どこか家っぽさのある駅
奨励賞	信州大学 岩間 夏希 tunnel

審査員	
審査員長	
建築家 栗生 明	
審査員	
JIA関東甲信越支部 支部長 上 浪 寛	
JIA群馬地域会 代表 曾 田 彰	
JIA新潟地域会 代表 小 川 峰 夫	
JIA山梨地域会 渡 辺 安 徳	
JIA長野地域会 代表 山 口 康 憲	

宮本忠長先生追悼

みやもと ただなが 宮本 忠長 略歴

- 昭和 2年 長野県須坂市に生まれる(本籍/長野県須坂市大字須坂 529 番地)
- 昭和 26年 早稲田大学 理工学部建築学科(工業経営)卒業<旧制>
- 昭和 26年 早稲田大学教授 建築家 佐藤武夫設計事務所 入所(14年間勤務)
- 昭和 34年 一級建築士資格取得(第29154号)
- 昭和 39年 宮本忠長建築設計事務所 設立
- 昭和 41年 株式会社 宮本忠長建築設計事務所(長野市)と改組、代表取締役所長に就任
- 平成 2年 小布施町景観デザイン委員会 委員長
- 平成 8年 長野市都市景観審議会 副会長
- 平成 14年 社団法人 日本建築士会連合会 会長(平成20年、名誉会長)
- 平成 14年 社団法人 日本建築家協会 名誉会員
- 平成 19年 社団法人 日本建築学会 名誉会員
- 平成 22年 代表取締役会長に就任



長野市庁舎設計当時

表彰等

- 平成 3年 建設大臣表彰(建設事業関係功労)
- 平成 4年 長野県知事表彰(産業功労)
- 平成 5年 黄綬褒章 受章(建設振興功労)
- 平成 15年 長野市功労表彰
- 平成 16年 第60回 日本芸術院賞 受賞(松本市美術館の設計)
- 平成 16年 平成16年度 第11回 信毎賞
- 平成 16年 旭日中綬章 受章(建築設計監理業振興功労)
- 平成 28年 叙位 正五位



近江 栄氏と



長野市立博物館現場にて

著書

- 昭和 55年 「寒冷地の工法」 井上書院
- 平成 3年 「住まいの十二月」 彰国社
- 平成 15年 「森の美術館」(村井修氏と共著) 中央論議事業出版

主要作品

<作品名> 〔所在地〕	<受賞歴>
長野市立博物館 〔長野県長野市〕	昭和56年度 日本建築学会賞 第二部(作品) 建設省公共建築百選 入賞 他 日本建築家協会 JIA25 年賞
小布施町並修景計画 〔長野県上高井郡小布施町〕	第12回 吉田五十八賞 建築部門 佳作
小布施まちづくり整備計画 〔長野県上高井郡小布施町〕	第32回 毎日芸術賞、第11回 信毎賞 他 2006年土木学会 景観・デザイン賞 最優秀賞
騰々亭(広島銀行迎賓館) 〔広島県佐伯郡大野町〕	
信州高遠美術館 〔長野県伊那市〕	第6回 公共建築賞 優秀賞
ケアポートみまき 〔長野県東御市〕	日本医療福祉建築賞 1996
森鷗外記念館 〔島根県鹿足郡津和野町〕	第3回 しまね景観賞 一般建築物部門 優秀賞 建設省公共建築百選 入賞
国民宿舎 サンライズ九十九里 〔千葉県山武郡九十九里町〕	
北九州市立松本清張記念館 〔福岡県北九州市〕	第41回 財団法人 建築業協会賞
小林古径邸復原事業 〔新潟県上越市〕	
松本市美術館 〔長野県松本市〕	第44回 財団法人 建築業協会賞 第60回 日本芸術院賞



小布施 織の広場にて



松本美術館(信毎賞授賞式)



リンゴ畑で



小布施 かんてんば竣工式にて

我が師 故 宮本忠長会長

荻原 白

2月25日、私は会長の病室に午後2時30分頃入りました。30分後の3時過ぎ会長は突然、両目を少し開けましたので、私共三人(次女・孫・私)は枕元に近寄り会長に呼び掛けると、うっすら口元に笑みを浮かべ何かうれしそうに話している様子でした。その直後、安らかな顔で静かに一生を閉じられました。それは、ほんの一瞬の出来事でした。

私は昭和50年4月に入社し、昨年暮れまで会長と一緒に沢山の仕事をさせて頂きました。私共事務所の『理念』は、会長が信州に根を下ろして『地方の建築家の仕事は、相対的に言って自然環境や町並みに影響され、そこから学ぶ機会を多く与えられているといえるかも知

れない。私共は、地域社会に生活し、その風土と人に育てられるのである。建築の仕事は、時間をかけて日常不断に繰り返して行われるものであって、その終局時などは不明の彼方にある。私は、信州の人や風土に教えられ、畏敬する多数の建築家に教えられ、ひとつづつ仕事を積み重ねていくだけである』との建築に向き合う心にあります。

会長は昨年12月25日まで図面チェックをし、この世でやるべきことは全てやり尽くし、私共に伝えるべきことは全て伝え生涯現役でした。その姿を私共は尊敬し誇りです。そして我が師に41年間も教えを頂いた私は幸せ者です。

建築とは美、用、強
の極致であり風土に
薫る文化である

宮本忠長先生を偲んで

ありがとうございました 安らかにお休み下さい

相談役 須田 考雄

いつもニコニコされ優しい目で諭すようにお話しされておりました宮本忠長さまがご逝去されました。哀悼の意を表します。

小布施のまちづくり等地域の風土を基盤にしなが、黄綬褒章始め建築界最高の建築学会賞や吉田五十八賞、日本芸術院賞他多数の褒賞や受賞歴。建築士連合会・日本建築家協会等数多くの団体でご活躍、日本の建築界で失うものが多く残念でなりません。

私が親しくさせて頂いたのは、JIA長野県クラブの前身の設計監理協会や事務所協会の会合等からでした。松本での会議が多く、中央の建築界の動きやさまざまな問題点、これからの建

築界のあり方を考え、熱っぽく語られておりました。東京からの帰りに松本の会合に出られ、帰りは長野までお送りする事が度々ございました。車中でも建築界の将来の思い等を語られ、アツ言う間に長野まで帰ってしまった事が懐かしく思い出されます。

今日、JIA長野県クラブが、地域クラブとして他を抜kindで活発な活動をしております。これも先生の長年に渡るご指導の賜物と思います。

建築家として最後までご活躍された先生に改めて感謝申し上げます。ご冥福をお祈り申し上げます。安らかにお休み下さい。

宮本忠長先生を偲んで

相談役 松下 重雄

宮本先生に一言のお礼も言えずにお別れしなければならないなんて…。私が今こうしてられるのは、先生のお陰です。前途が見えず、17年ぶりに尾羽うち枯らして郷里の飯田に戻り、苦しんでいるときでした。南島先生のご紹介でJIAの前身にもなった「設監連」に入れてもらい、そこで宮本先生に優しく接していただいたのが最初でした。35年程前だったと思います。当時やっど地方建築家の時代到来として、岡山の浦辺鎮太郎・東北の本間利雄等に混じって宮本忠長先生のお名前が建築界に知られはじめていました。「新日本建築家協会」の設立準備は一緒にお手伝いさせていただきました。1987年赤坂プリンスホテルでの設立

大会の興奮は今も忘れられません。丁度その年、宮本先生は新建築「住宅特集」1月号に「地方の建築家の困難と至福」を寄せられました。今読み返しても残念ながら、建築界は全く変わっていません。

建築士会の最高峰に登りつめられた先生は、時々、「自分にとってはJIAが本籍で、士会は現住所」と言われました。できることなら、本籍も現住所もJIAで日本の建築界を変えて欲しかったです。一緒にお手伝いしたかったです。恨めしくて仕方ありません!どうぞ安らかにお休み下さい。

宮本忠長先生を偲んで

相談役 高橋 重徳

地方で建築設計をする私たちにとって、宮本先生の存在は一言で言い表すことのできない大きな存在でありました。先生のご逝去によって今日までリードして頂いた1つの時代の区切りを感じざるを得ません。

そして、卓越されたご指導により、私たちにたくさんの財産を残して頂き、心より感謝申し上げます。特に地方で生きる建築家の進むべき道や、その方向への勇気を与えていただきました。先生の残された建築の思想、作品、そして情熱をこれからも目標として慕う人々は数知れません。

会や会員に対しても、大変お忙しい中、何度となく長野県クラブの幹事会や総会、学生卒業設計コンクールの審査員などとしておいで頂きました。そして色々なお話の折に、「私は、今の現住所は建築士会にあるが、本籍はJIA長野県クラブだよ!」などご発言され、私たちを温かく見守ってご支援を頂き、そして励まして頂きました。その時々やさしく、嬉しげなお姿が思い出され、懐かしくお人柄が偲ばれます。

改めて感謝申し上げます。心よりご冥福をお祈り致します。



長野市立博物館



高遠美術館



緑ヶ丘舎



森鷗外記念館



松本清張記念館



松本市美術館

宮本先生の訃報に接し、信州の地に建築家の存在を植えて頂いた宮本先生のご功績を心からかみしめております。

JIA本部支部の役職を務めさせて頂いた折りに、良く先輩諸氏から「長野地域会はどうしてそんなに活動が活発なのか?」という疑問をぶつけられます。新潟地域会の小川代表からも、県民人口や建築士の数から見れば、JIA新潟の会員数は長野より多くないとおかしいのに現実半分しかないとおぼされます。そんなときには必ず、長野には宮本先生が築かれた建築家としての

多くの足跡があるから、私たち長野地域で活動する建築家は皆、その恩恵を受けており、宮本先生を象徴として結束できる絆があるのだと答えることにしています。

建築家として多くの功績を残された宮本先生ですが、ことあるごとに「JIAが私の本籍」とおっしゃっておられた通り、常々JIAに心を寄せておられました。JIA長野県クラブの今があるのも、ひとえに宮本先生がおられたからだと確信しております。

先生のご冥福をお祈り申し上げます。

宮本先生との思い出

相談役 坂田 守夫

3月の初めに先生のご逝去の報に、一瞬目の前が真っ暗になった気がします。

昨年テレビ電話でお話をした時には非常に元気だったのにも思いました。

先生とはJIAに入会した時の推薦者になっていただきました。お陰で会への出席率も非常によかったです。

当時賛助会員の数も今より少なかったのですが、会費は結構高く、何社かは2口賛助会費を支払っていました。

そんな折、35年以上前に総会の席上「賛助会員が役員に入っていないのはおかしい」と私は発言しました。

その時先生は「当然だよ!! 賛助会の皆様方には大変お世話になっている来年の役員改選期には是非考える」と約束してくだ

さいました。

次の年の総会には、先生が約束してくれた通り、賛助会長、副会長、会計監査の3つの役職が設けられていました。現在迄賛助会は永々と続いております。本当にありがたく思っております。

賛助会の技術交流会も先生が発言されて作られたものです。当時JIAは会自体金がなく、大変な時期でしたが、今と比べて楽しかった気がします。

私も賛助会長を辞めて2年になりますが、JIAとは大変疎遠になっております。

今年は先生を偲びながら、久しぶりに総会に出てみようと思っております。本当に先生には何から何までお世話になりました。

ご冥福をお祈り申し上げます。

宮本忠長先生を偲ぶ

JIA長野県クラブ代表 山口 康憲

さる2月25日宮本忠長先生が逝去されました。戦後70年を数え、事務所設立50周年にあたる年に不世出の建築家が去り、1つの時代が終わりました。

先生は地方から情報を発信し、全国で注目を浴びる先駆けとなりました。地域の風土を読み、文化・歴史を尊重し地域に暮らす人々に想いを寄せ、その場所に最も相応しい建築を考え抜くという設計思想は、私には近代建築のインターナショナル・スタイルのアンチテーゼに見えました。

小布施町のまちなみ修景事業は、歴史的な町並みや保存に値するような民家も集落も特になかった町の中に1つの建築が

生まれ、それが地域の人たちの共感を得ながら点が線になり、さらに面へと広がって行った。一人の建築家が熱意を持った地元の人たちと長い時間をかけて造り上げたもので、わが国のまちづくりの歴史でエポックメイキングなものとなりました。

私は、先生はわが国の戦後の建築史に必ずや名を残す大建築家であると思います。JIA長野県クラブは宮本先生によって生まれ、先生に憧れや共感を持って建築の道に進んだ会員も多いと思います。微力ではありますが、先生の求めた地域に貢献する建築家の役割を誠意を込めて果たして行きたいと思っております。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

祝 受賞・表彰

平成27年度
松本市景観賞

■建築物・工作物部門 部門賞

蔵の人形美術館…… 児野 登/㈱アーキディアック
北深志の家…… 林 隆/林建築設計室
土肥農園…… 丸山 和男/news設計室

■奨励賞

松澤邸…… 荒井 洋/HAL設計室

■開催したイベント

2月7日(日)…暮らしの空間セミナー
2月27日(土)…文化講演会
2月28日(日)…長野県学生卒業設計コンクール
4月13日(水)…監査・第4回幹事会
4月22日(金)…2016年度通常総会

■今後の行事予定

4月29日(金・祝)～5月31日(火)…工芸の五月2016
6月10日(金)～12日(日)…第1回 JIA関東甲信越 支部大会
6月18日(土)…第1回 環境セミナー
「信州“準寒冷地温熱教室2016”」
6月25日(土)…香山壽夫氏と語る会



編集人/吉田 満 発行人/山口康憲
発行所/JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内
TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303
<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com

編集後記

JIA長野県クラブ広報委員会では、公益社団法人として社会に開かれた団体として、会報「建築家通信」を発行してまいりました。できる限り「外向けの会報」を目指し、会員・協力会員以外の方にも寄稿して頂きました。いつも力不足を感じながらの編集作業でしたが、今回を最後に次の編集担当の方へバトンタッチすることになりました。寄稿して頂いた皆様には、お忙しい中誠に有り難うございました。また、丸山委員長を初め事務局佐藤さん、アッカグラフィックスの高山さん、大変お世話になり有り難う御座いました。吉田 満

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。